

井手高吉理事



就任打診に「ふるさと愛かな。地元からのオファーでなければ受けなかつた」と笑う。

直江津港の振興を考える時「ローカルポートで考える時代ではない。世界的なグローバル経済を抑えておく必要がある」と一家言をもつ。

「世界は激変している。物流の流れが太平洋側から日本海側に移っているともいえる。今までの主要港が主要港でなく、急成長するローカル港も」と直江津港のポテンシャルを説く。中国の急速な成長、ロシアなど国際海上物流も複雑化しているという。「BRICS（Bはブラジル、Rはロシア、Iはインド、Cはチャイナ）中国を指し、成長性のある新興諸国）の動きに加え、タイも今後注目される」と言う。

そのためにも「行政、商議所、企業も

グローバルな目線で見ても、きちんとフォーカスする姿勢が求められてくる。」具体的に「韓国の釜山港がハブ（中核）港になりつつある。直江津港には追い風。ルートを増やす可能性がある」と分析する。

そのうえで「港も物流も荷客・顧客のニーズに合わせて考える必要がある。物流を仕入れから販売に至る物の流れの管理活動で考える」ロジスティックスな考え方をアドバイスしている。

〔上越タイムスより〕